

家庭科

家庭科部 新井 亮 中里 真一
研究協力者 田中 麻里

I 家庭科における「社会に変革を起こす子ども」

自他が試行した方法についてよさや改善点を伝え、他者の方法をよりよい生活の実現につながる方法にできる子ども

本校の学校教育目標「つよく ただしく かしこく」を具現化した児童の育成のためには、各教科等の学習指導要領を基に、本校の児童の実態を踏まえて捉えた資質・能力を育むことが必要である。家庭科の問題解決的な学習では、「身に付けた知識や技能を基に生活をよりよくしようと工夫する資質・能力」を育むことを目指す。この資質・能力と、家庭科の問題解決的な学習の過程の具体は、以下のとおりである。

身に付けた知識や技能を基に生活をよりよくしようと工夫する資質・能力

(1) 知識及び技能

生活に必要な衣食住などについての基礎的な理解と、それらに係る技能

(2) 思考力、判断力、表現力等

生活の中から自ら問題を見いだして課題を設定し、様々な方法を考えて解決する力

(3) 学びに向かう力、人間性等

家族の一員としてよりよい生活の実現に向けて、生活を工夫しようと実践する態度

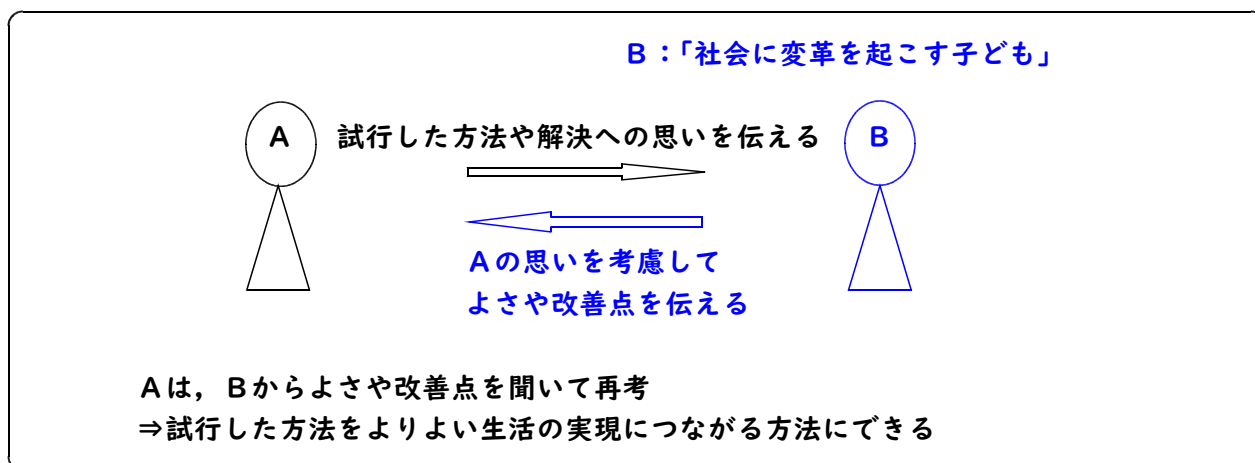
< 「身に付けた知識や技能を基に生活をよりよくしようと工夫する資質・能力」についての三つの柱 >

過程	学習活動
見つめる つかむ	生活の中から問題を見だし、課題をつかむ 学習計画を立てる
追究する	実践的・体験的な活動を繰り返して、課題を解決する 方法を試行する 試行した方法の評価・改善をする 調理や製作等の実習を行う ※実習を位置付けずに、<u>家庭での実践</u>となる題材もある
まとめる 広げる	課題の答えを整理し、<u>家庭での実践計画を立てる</u> <u>家庭で実践する</u> ※<u>家庭での実践</u>が一連の学習活動として位置付かない題材もある <u>家庭で実践した結果や感想を話し合い、題材の振り返りをする</u>

< 本校家庭科の問題解決的な学習の過程 >

全体研究を踏まえ、家庭科における「社会に変革を起こす子ども」を「**自他が試行した方法についてよさや改善点を伝え、他者の方法をよりよい生活の実現につながる方法にできる子ども**」と具体化した。家庭科の問題解決的な学習において、児童は生活の中から問題を見いだして課題をつかみ、学習計画を立てて追究の見通しをもつ。そして、解決に向けた方法を試行したり、試行した方法の評価・改善を繰り返す中で、「よりよい生活を実現するための方法」を導き出していく。しかし、問題解決の中心となる「実践的・体験的な活動を繰り返して課題を解決する」場面では、試行した方法がよい結果にならない原因や、方法自体のよさや改善点が見いだせないこともある。このような中で、相手の求める解決への思いを考慮して他者が試行した方法のよさや改善点を伝えられる児童がいる。この児童の関わりによって、自分だけでは評価・改善できない児童も、課題の解決に向けた方法をよりよい生活の実現につながる方法にすることができていた。このような児童の姿こそ、家庭科における「社会に変革を起こす子ども」に相当する姿だと考えた。

また、本研究で捉えた「**自他が試行した方法についてよさや改善点を伝え、他者の方法をよりよい生活の実現につながる方法にできる子ども**」の姿は、資質・能力の三つの柱を相互に関係し合うことを活性化している姿であり、家庭科の問題解決的な学習の中で、上記のような姿が現れることを積み重ねることにより、本校家庭科で捉えた資質・能力を育成することができる。



2 家庭科における「社会に変革を起こす子ども」の姿が現れるための学習指導の工夫

これまでの本校家庭科の研究や実践の中で、「**自他が試行した方法についてよさや改善点を伝え、他者の方法をよりよい生活の実現につながる方法にできる子ども**」に相当する児童は、「課題を解決するために試行した方法の結果」「自分の考えを伝えた際の友達の評価」「これまでの家庭科での学習経験や、既得の知識や技能」「他教科等の学習経験」「学校生活での経験」「家庭や地域での生活経験」などの情報活用に長けていた。そして、これらの収集した情報を結び付け、試行した方法のよさを実感したり、改善したりすることができていた。一方で、他者が試行した方法についてよさや改善点を見いだしているにも関わらず、相手に根拠を示して伝えたり、相手の思いを考慮して伝えたりすることができない姿も見られた。

そこで、家庭科の学習の中で「**自他が試行した方法についてよさや改善点を伝え、他者の方法をよりよい生活の実現につながる方法にできる子ども**」の姿が現れるように、「情報の吟味」を重視し、学習指導の工夫を行うこととした。

試行した方法とその結果を可視化し、比較する機会の設定

「自他が試行した方法についてよさや改善点を伝え、他者の方法をよりよい生活の実現につながる方法にできる子ども」の姿が現れるためには、自他が試行した方法とその結果を比較して、よさの実感を強めたり、結果の原因を探って具体的な改善点を捉えたりすることが欠かせない。そこで、試行した方法とその結果を可視化し、比較する機会の設定を行う。この学習指導の工夫では、ペアやグループ、学級全体で、試行した方法とそのよさや改善点を伝え合う。その際、ICT機器を用いて、試行した方法とその結果を可視化する。こうすることで、児童は、それぞれが試行した方法やその結果を見比べて、よさや改善点の根拠として相手に伝えることができる。試行した方法は、実践的・体験的な活動の内容によって、画像や動画で撮影して可視化したり、タブレット等のICT機器を操作して可視化したりする。

可視化する方法	実践的・体験的活動の内容
画像や動画撮影	調理や製作、清掃、実験など、実物を用いて行う活動
ICT機器のアプリ操作	調理や製作の手順（手順カードの並び替え等）、シミュレーション（整理・整頓等）など、ICT機器の操作で行う活動

—— 第5学年「夏の省エネライフー風の通り道をつくろうー」 ——

煙を充満させた模型で試行した窓の開け方とその煙の動きについて、撮影した動画を見比べる機会の設定

- ・タブレットで撮影した異なる窓の開け方とその際の煙の流れを比較して、それぞれが試行した窓の開け方のよさや改善点を見いだす



部屋全体の空気を上手に入れ替えたいな。



近くの窓を2カ所開けても煙が流れるけど、部屋の中に煙が動かない場所もあるね。



離れた位置の窓を開ける方が、部屋全体の煙が動くのではないかな。

- ①窓の開け方AとBを試行（撮影）→②試行した窓の開け方とその煙の流れを比較して、よさや改善点の根拠とする

- ③窓の開け方Cを試行（撮影）

今度は、離れた位置の窓を2カ所開けて試してみよう。

3 成果と課題

本校家庭科では、「**自他が試行した方法についてよさや改善点を伝え、他者の方法をよりよい生活の実現につながる方法にできる子ども**」の姿が現れるよう、その授業における具体的な姿や学習指導の工夫について研究を進めてきた。その結果、次のような成果と課題が明らかになった。

○成果

児童は、互いの試行した方法とその結果を見比べる中で、試行した方法とその結果、友達の評価などといった情報を結び付けていた。そして、相手に根拠を示したり、相手の思いを考慮したりして、よさや改善点を伝えていた。また、伝えられた児童は、自分が試行した方法を評価して自信をもったり、別の方法を考えて試行を繰り返したりして、課題を解決することができていた。

これらの姿は「**自他が試行した方法についてよさや改善点を伝え、他者の方法をよりよい生活の実現につながる方法にできる子ども**」の姿である。これは、「情報の吟味」を重視し、収集した情報を結び付けるための学習指導の工夫により、児童が、他者が試行した方法とその結果から見いだしたよさや改善点を、相手に根拠を示して伝えることができたためであると言える。

○課題

家庭科の問題解決的な学習の中で、試行した方法のよさや改善点を互いに伝えることができたものの、伝えたよさや改善点が、相手の求める解決への思いを十分に考慮したものではなく、一般化した内容であったため、伝えられた側が試行する方法を改善する際の情報として活用できていない姿も見られた。そのため、今後は、児童が友達の求める解決への思いに十分に寄り添い、よさや改善点を伝えることができるように、互いの思いを共有したり、確認したりする機会を設定する学習指導の工夫を行っていきたい。

【参考文献】

- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』平成30年2月，東洋館出版社。
- ・長澤由喜子【編著】『早わかり&実践 新学習指導要領解説 小学校家庭 理解への近道』平成29年10月，開隆堂。